



病院理念

- 1 ひかり輝く心身であれ
- 2 患者さまの立場になって考えよ
- 3 責任を持って行動せよ

本年度の二文字標語

不撓

患者さまの権利

1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれる権利
3. 選択の自由と自己決定の権利
4. セカンドオピニオン（他の医師の意見）を求める権利
5. 個人情報・秘密が守られる権利
6. 医療の情報・説明を受ける権利



当院は全館  です

東洋医学について

総合診療科 医師 服部 孝雄

東洋医学とは、インドで行われているアーユルヴェーダ、チベット医学なども含め、東洋で生まれた伝統医学を意味します。近代医学の主流をなしている西洋医学とは対照的に取り扱われる事が多く、通常西洋医学に対しては、中国に伝わる医学のことをいいます。日本では江戸時代、西洋から新しく入った医学を「蘭方」と呼ぶのに対して、それまで日本に伝わり、日本で発展した医学を「漢方」日本の漢方という意味で「和漢」、と呼びます。わが国には、漢方医学、漢方医、などという言葉と同様に漢方薬という慣用語があって、漢方で使用されるような生薬類を広くこれに含ませるような習慣になっています。そのため、漢方と言うとすぐ漢方薬（中国では中薬と呼ぶ）をイメージし、とかく草根木皮を用いる薬物療法に限局したように印象づけられる傾向があります。



ところが、中国医方そのものには、他に針（鍼）灸、養生、導引（あん摩）、気功、太極拳なども含まれています。

一方西洋医学はエジプト医学やアラビア医学に端を発しているといわれています。ヨーロッパに伝えられて各国に広まってきました。最初は医師の肉眼だけに頼っていたものが、拡大鏡や顕微鏡が用いられるようになり、人体組織の解明や病原菌の発見に繋がりました。西洋医学は細分化を特徴とし、とりわけ現代医学はミクロを追求するものであり、一般に、科学的、理論的、分析的、客観的であるといえます。そのことから、一つの病状や病気に対する直接的な治療に向いています。

これに対し、東洋医学は「マクロの医学」といえます。人体を一つの有機体とみなし、常に全体のバランスを視野に入れ病気を考えるものであり、西洋医学に比べて、哲学的、経験的、総合的、主観的であるといえます。その基本原理は病気を陰陽のバランスの崩れととらえ、治療は陰陽のバランスを回復することにあるとしています。つまり、人の身体が持っている健康を維持しようとする「いわゆる自然治癒力に重点を置く医学」であり、

漢方薬治療、針（鍼）灸治療もそれに準じて行います。漢方薬治療の特徴は、「オーダーメイド」の治療にあります。1人ひとりの体質や病気の状態を見極めながら最適の漢方薬を使い分けて行うことをします。このため同じ病名でも患者様によって飲む薬が違う「同病異治」、ひとつの薬がいろいろな病気に応用される「異病同治」ということがあるわけです。

漢方薬がよく用いられる病気には不定愁訴・心身症的疾患・高齢者の疾患・長期管理が必要な疾患・免疫・アレルギー関連の疾患・その他に冷え症・悪性腫瘍手術後のQOLの改善などがあります。

これからの日本東洋医学

いままで日本の東洋医学が衰退していった原因のひとつとして、1883(明治16)年に医師国家試験(いわゆる開業資格試験)の内容が西洋医学となったのが始め、富国強兵、先進国を目指した戦前の日本には西洋医学中心の医療を求めてきたことにあったようです。しかし、1950年には、日本東洋医学会が発足し1976(昭和51)年には漢方製剤が健康保険診療に導入され、今日では72%の医師が診療に漢方を用いています。また、2002(平成14)年度から東洋医学が医学教育に取り入れられるようになりました。

高齢社会での医療のあり方が問われ、医療経済上も慢性病、がん医療も含め生活習慣病への対応が急務である時代に入り、漢方薬、針（鍼）灸などの東洋医学の重要性は今後ますます高くなるものとおもわれます。

院長室より



病院における一番大切な事は、安全な医療につきます。当院では、患者様により信頼され、安心して医療を受けられるよう、毎週土曜日に朝礼を行い、職員に指導しております。

ヒポクラテスの誓詞

このスライドは、ギリシャの医神・アスクレピオスと治癒の象徴の聖獣のヘビの像です。ヒポクラテスの誓詞は、医学の基本ですが、従来、「医療というのは専門家である医師にまかせておけば良い。」というパターナリズム（父権主義）でありました。しかし、昨今は、患者の権利も重要となり、説明と同意が求められる時代になりました。

説明責任 (Accountability)

情報公開

患者に対する医療情報の公開

倫理性の確保

患者の信頼を得るためには、医療従事者の高度の倫理性が保証されているかどうかが必要となる。

説明責任①

現在、医療分野において、説明責任 (Accountability) が求められています。情報公開、特に、患者に対する医療情報の公開です。そのためには、倫理性の確保が必要で、患者の信頼を得るためには、医療従事者の高度の倫理性が保証されているかどうか重要となります。

説明責任 (Accountability)

医療の不確実性

インフォームドコンセント(説明と同意)

医療事故

安全管理対策

医療の不確実性を患者とともに認め合い、ともに医療を共有して、エラー・医療事故発生を少なくし、信頼される質の高い医療を提供する

説明責任②

病院における説明責任のポイントとしては、①医療の不確実性 ②インフォームド・コンセント(説明と同意) ③医療事故 ④安全管理対策 であり、医療の不確実性を患者とともに認め合い、ともに医療を共有して、エラー・医療事故発生を少なくし、信頼される質の高い医療を提供する事になります。

伊勢慶友コンサート

“愛のオペラ” 羽山晃生・羽山弘子 ジョイントリサイタル

日時：平成21年8月2日(日) 午後3時半開場

場所：伊勢慶友病院 7階ホール 入場料 2000円

♪ サルテリ：君と花と♪ 新井満：千の風になって ♪武満徹：死んだ男の残したものは ♪プッチーニ：歌劇「トスカ」より 盗みおぼれぬ煤@ ♪プッチーニ：歌劇「トゥーランドット」より 湯もも寝ておぼれぬ煤@ ほか

イタリアのヴェローナ留学から帰国して10年を迎える羽山晃生・弘子。各地のコンサートで活躍中。二期会会員。東京オペラ・プロデュースメンバー。

主催：音楽ネットワーク「えん」。 <http://homepage2.nifty.com/enn/>



38.0℃以上の発熱（新型インフルエンザ疑い）

で自宅療養される患者さまへ

発熱者から健康者への感染を予防するために、発熱者が注意すること

- ① 鼻をかんだり、咳嗽時に手で口や鼻を覆った場合は、すぐに流水で手を洗って下さい。
(鼻汁、喀痰中には多数のウイルスが存在し、手を洗わない場合、手についた鼻汁、喀痰が乾燥して、手を動かすたびにウイルスを含んだ粒子が周囲に舞い上がり、健康者が主に鼻から吸い込むことで感染が広がります。手洗いエチケット)
- ② 鼻汁、喀痰の付着したティッシュはまとめてビニール袋に入れて捨てて下さい。また、鼻汁・喀痰の付着したハンカチ、衣類はビニール袋に入れて、できればウイルス汚染の無い衣類の洗濯後に、まとめて洗濯してください。
- ③ 健康者と同室になる場合は、鼻・口を覆うマスクを着用し、咳嗽で喀痰が飛散しないように注意してください（咳エチケット）。鼻汁・喀痰・唾液などでマスクが濡れた場合は、まめにマスクを交換し、手が、鼻汁・喀痰・唾液などで濡れた場合は、手を洗って下さい。
- ④ うがいは咽頭に付着しているウイルス粒子を洗い流して数を減らし、炎症部位の咽頭を冷やして、痛みを軽減します。（その時にうがい水をまわりに飛散させない事が重要である）

健康者が注意すること

- ① 感染者と30分以上同室の場合は、できるだけ常に2m以上離れてください。（咳エチケットをした場合、咳嗽時の喀痰の飛散や、鼻汁で汚染された手からの鼻汁の飛散は、感染者周囲2m以内と考えられます。）
- ② 感染者と30分以上同室の場合は、鼻・口を覆うマスクを着用し、服もできれば、眼鏡もあれば使用した方が安全です。（粘膜面を覆う）マスクの頻回交換は必要ありません。
- ③ 感染者の介護・介助をする場合は鼻、口を覆うようにマスクを着け、できれば眼鏡をかけ、鼻汁、喀痰の付着に注意し、終了後は手を肘まで流水で洗ってください。

インフルエンザ迅速検査の注意点

インフルエンザAは発症後12時間、インフルエンザBは21時間以上経過しないと、陰性と判断される場合があります。翌日も解熱（37.5℃未満）しない、症状が改善しない場合、電話で病院に問い合わせ、再受診してください。再検査が必要な場合もあり、数日は要注意です。

インフルエンザと診断された場合

13～18歳の未成年者は、患者・患者家族が希望され、その副作用について理解され、保護者の監視が可能な場合に、タミフルを処方します。

小児・未成年者で万が一の事故防止のために、次の事項に注意してください。

1. タミフルの副作用かは不明ですが、高熱に伴って異常行動が出現し、高所からの転落事故が報告されています。（タミフル内服者、タミフル非内服者、共に事例が報告されています）
2. 自宅療養を行う場合、治癒（37.5℃未満が48時間以上持続する）まで数日間、保護者は小児・未成年者ができるだけ1人にならるように配慮してください。

院内行事

夏

祭

り

2009年“夏祭り”

7月12日（土）、今年も恒例の夏祭りを盛大に開催しました。

午後3時から、1階待合ホールにたくさんの入院患者さんが集合して、役所関係にお勤めの杉本さんの沖縄民謡弾き語り、そして「緑海舞遊会」の皆さんによる沖縄エイサーが披露されました。

迫力ある太古と独特の踊りにみんな大喜びして楽しい1日を過ごしました、出演してくださったボランティアの皆さんありがとうございました。



第6回 糖尿病教室 開催



第6回糖尿病教室



7月9日（木）に第6回糖尿病教室を開催させていただきました。

今回はお砂糖の代わりにパルスweetを使用し、カロリーをおさえた手作りのくずまんじゅうを召し上がっていただきながら、外食メニューの特徴や、外食の上手なとり方についてのお話をさせていただきました。

みなさんが大好きな回転寿司のカロリーを予想するクイズも取り入れ、患者様にも楽しんでいただけたと思います。

次回も計画中ですので、是非一度御参加下さい。



施設紹介

リハビリテーション

糖尿病は加齢の他、食習慣や運動習慣(生活習慣)の偏りが発症の原因となっているので、「生活習慣病」と言われています。すなわち、過食や運動不足による肥満、特に内臓肥満が発症・憎悪の根底にあり、予防や治療の為にはその改善が求められています。この為、運動療法は食事療法・薬物療法とともに糖尿病治療の基本とされ、その効果も広く認識されつつあります。特に、日本人の糖尿病の95%を占める、2型糖尿病の人で、血糖コントロールが安定している人の場合は、食事療法とともに運動療法を行うと、血糖が下がるだけでなく、糖尿病の様々な症状が改善され、さらには、動脈硬化の予防、老化防止といった点でも効果があることが実証されています。しかし、進行した合併症がある時には、運動がかえって病状を悪化させることもあります。よって今回は、適切な運動方法や、運動の効果についてお話させていただきます。



理学療法士 松本



お知らせ

ケアプランセンターの移転



この度 ケアプランセンターが移転しました。以前は院内の地域連携室と同施設での運営でしたが病院東 出入り口の前に新設移転となり、よりご相談窓口もご利用しやすくなりました。駐車場はそのまま、本院の駐車場をご利用下さい。



こちら

